

予報期間 2月16日から2月22日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 18日は、低気圧が日本海からオホーツク海に進み、前線が北日本を通過する。別の低気圧が日本の東を東進する。大陸の高気圧が東シナ海に張り出す。
- 19日は、低気圧がオホーツク海から千島近海へ進み、高気圧が本州付近に移動する。
- 20日は、高気圧が日本の東と日本の南に移動し、東日本太平洋側が気圧の谷になる。
- 21日から22日にかけて、中国東北区を低気圧が進み、22日は日本付近に気圧の谷が進む。

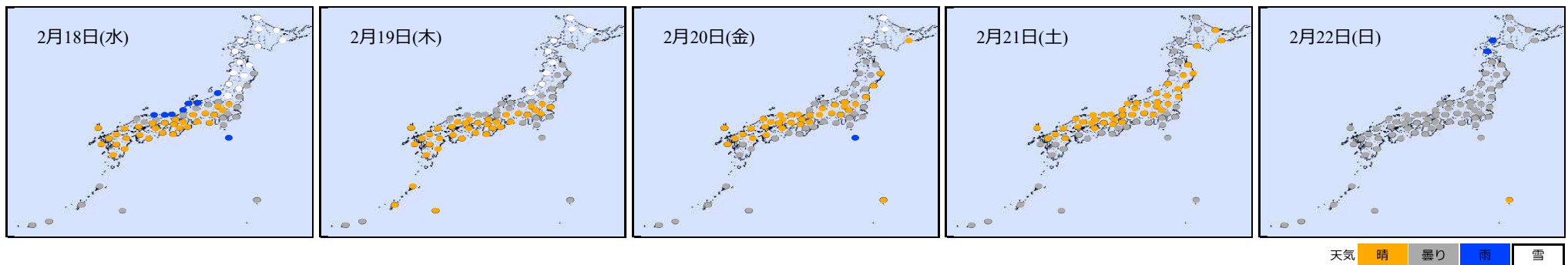
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

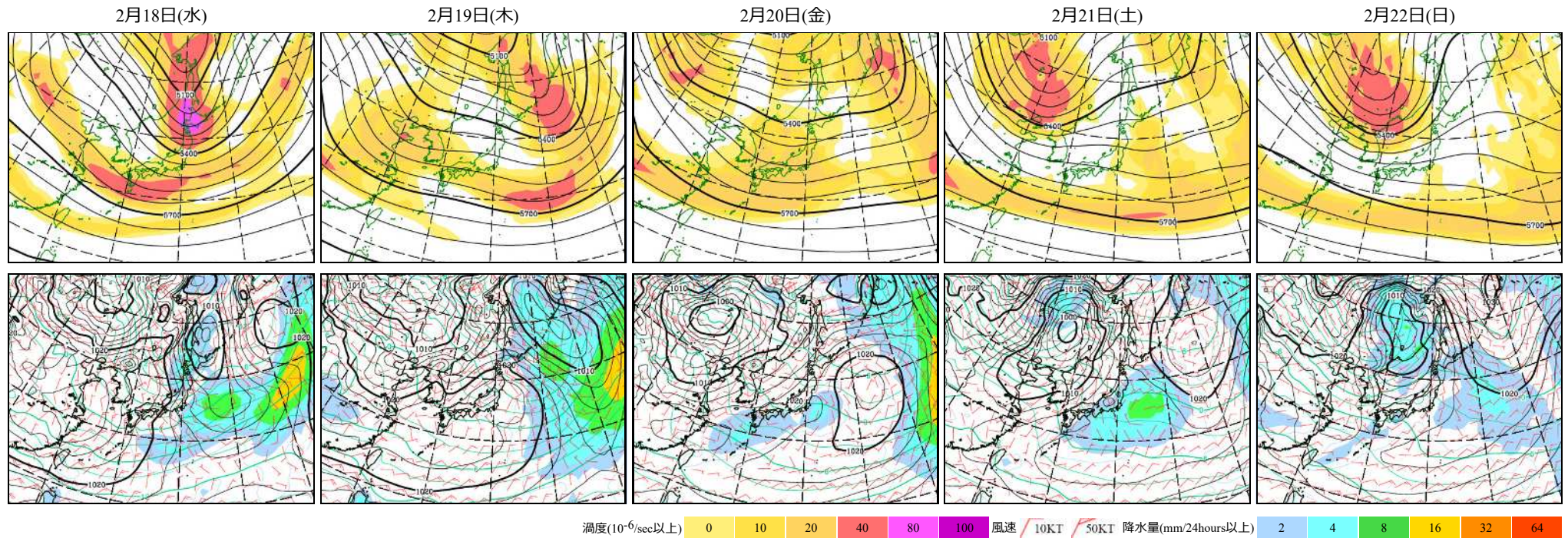
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

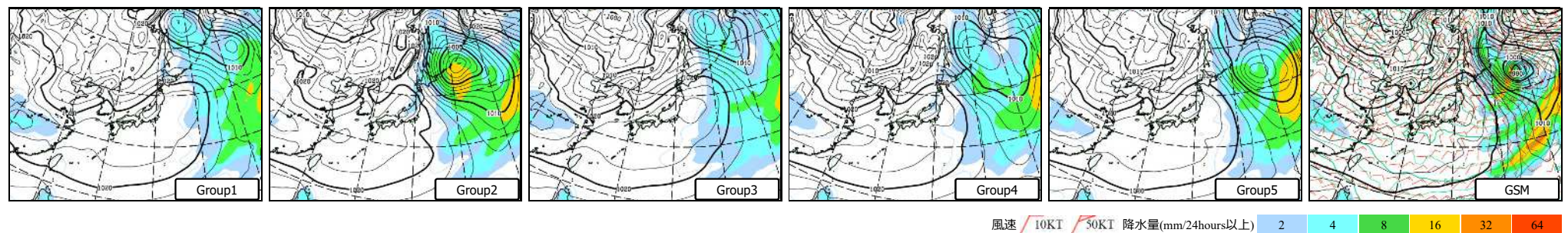


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、晴れる所もあるが、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月19日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、大きな初期値変わりはない。18日に北日本に進むトラフはやや深くなり、20日に日本海に進むトラフは東進がやや早くなった。地上の気圧配置も、大きな初期値変わりはない。
- 19日から20日にかけて日本付近を進むトラフの予想は初期値変わりしているモデルが多く、モデル間の差もあるが、地上の気圧配置への影響は小さい。22日に中国東北区に進む寒冷渦についてはGSMのみ他のモデルと異なる予想をしている。
- 19日は、千島近海を進む低気圧の動きが遅くなったモデルもある。ENSには、同様の予想をするメンバーを含んでいるが、数は少ない。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。